



下曽我小学校
学校だより

梅の香

令和8年9月11日
藤本 明美
No.5



ふるさと下曽我を愛する子

目標に向かって力を合わせる子

感謝と思いやる心を大切にする子

自ら考えて行動する子

*記事の色はめざす子どもの姿に合わせています。

子どもたちの笑顔と元気な声が学校に戻ってきました。今年は45日間という長い夏休みでしたが、大きなけがや事故の報告もなく過ごすことができました。保護者や地域の皆様の見守りのおかげです。ありがとうございました。

一方で、この夏は熊本地方の地震をはじめ、各地で大雨、台風などの自然災害が相次ぎました。今もなお厳しい避難生活を余儀なくされている皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。9月1日の朝会では、「自然災害がいつどこで起こるかわからないからこそ、怖がるのではなく、備えることが大切である。」ということ子どもたちに話しました。校内でも今一度防災体制の見直しを図ってまいります。

今年は、暑い期間が長引くと予想されています。今後、運動会の練習も始まっていますが、子どもたちの心と体の変化を見逃さないように、しっかりと見守ってまいります。ご家庭でお気づきのことやご心配なことがございましたら、遠慮なく担任や学校にご連絡ください。

冬休みまでの主な行事や活動

○運動会：10月17日(土)

開会式8:40 閉会式11:40 ごろ

テーマ「最高のうめっ子団 今こそ絆を試す時」

・今年度は、運動会の中盤で「下曽我 ONDO」を踊ります。保護者の皆さんや地域の皆さんと一緒に運動会を楽しみたいという思いで、6年生が中心となって曲や踊りの制作に取り組んでいます。歌詞は、全校児童から集まった言葉をもとにして、6年生が完成させます。下曽私の地域が大好きな子どもたち。どんな ONDO (音頭)と踊りができあがるのか今から楽しみです。保護者や地域の皆さんも練習できるように、10月には HP でご紹介する予定です。当日は、ぜひ踊りの輪にお入りください。

下曽我 ONDO を一緒に
楽しみましょう。



・決められたエリアでは、シート・テント・タープ等の設置は可能といたします。児童席後方からの見学はできません。また、校地内は禁酒禁煙です。マナーを守り、子どもたちのがんばりに応援をお願いします。

○3年生校外学習：10月22日(木)

・スーパーマーケットを見学します。



○1、2年生校外学習：10月29日(木)

・今年度は、平塚市総合公園に出かけます。

ふれあいコーナーでは、ヤギやヒツジ、ウサギ、ヒヨコなどの生き物に触れたり餌をやったりします。

○おはなしランプ大型読み聞かせ(図書ボランティア)

10月30日(金)1~3年5校時 4~6年6校時

・「むしたちのおまつり」(文:得田之久 絵:久住卓也 童心社)を読みます。読み聞かせにご興味がある保護者の皆様のご参観も可能です。参観をご希望の方は学校にご連絡ください。2階生活科室で行います。

○小田原市いっせい総合防災訓練

(11月7日土曜日 8:00頃~12:00頃)

・「もしも…」に備えて「家にいるときに大きな地震がきたらどういうふうに避難すればよいか」を学ぶよい機会です。(詳しくは自治会の回覧をご覧ください。)

○5年生自然体験学習：11月4日(水)5日(木)

・これまで6月に行ってきた体験学習を11月に行います。秋ならではの山の魅力を存分に味わってほしいと思っています。保護者説明会は10月6日(火)15時からです。

○ふるさと探検ウォーク(11月20日金曜日 午前)

・曽我氏館跡や宗我神社、二宮尊徳遺髪塚などの10か所をたてわり班で協力して巡ります。約6kmのハイキング。応援の声かけをお願いいたします。



○3、4年生校外学習：11月25日(水)

・総合防災センターと宮ヶ瀬ダムを見学します。

○なかよし級 4~6年生ボッチャ大会：12月2日(水)

○3年生校外学習：12月3日(木)消防署を見学します。

○6年生校外学習：12月21日(月)

・科学技術館と国会議事堂を見学します。

◆自ら考え、自ら動く◆

子どもたちの登校が始まって10日ほどですが、校内では長い夏休み明けと思えない活気を感じています。

先日、新キャラクタープロジェクトのメンバーが訪ねてきました。「食堂前に置いてある校長先生のホワイトボードを貸してもらえますか。応募してくれたみんなの作品を掲示したいんです。」夏休み前、「下曽我小学校のキャラクター『ころめ』の友達をつくろう。」と全校に呼び掛けたところ、51もの作品が集まったそうです。

新キャラクターは、「下曽我といたら梅とみかん」ということで、みかんがモチーフになっています。「みんなに元気を与える子」「食べるのが大好きな子」「感情豊かな子で、感情が頭についた葉に表れる」など、キャラクターの性格の説明も書いてあり、子どもたちがよく考えながら描いたことが伝わってきました。この後は、全校児童の投票を数回行って新キャラクターを決めていくとのことでした。（学習参観の際、保護者の皆様にも投票にご協力いただきました。ありがとうございました。）

子どもは「これに挑戦する」と自分で決めた瞬間、表情が変わって動き出します。そして、困ったことがあっても、その解決方法を自分で考え出します。「やりなさい」で動くのではなく、「やるゾウ」で動く姿をこれからも応援していきたいと思っています。



楽しみだな！



◆みんなが学ぶ・みんなで創る◆

本校では、主体的に課題に取り組み、他者との学び合いを通して自らを高めようとする児童の育成をめざし、「一人一人が自分に最適な方法を選択して学ぶこと」と「友達と関わりながら協働的に学ぶこと」を一体的に充実させる授業研究を進めています。8月27日は、山梨大学から茅野政徳先生をお招きし、校内研修会を実施しました。

研修会では、学年応じた学びの経験が、学びの自己調整力と協働する力を育てていくことを学び、ステップの踏ませ方を具体的にご指導いただきました。

茅野先生には、9月17日に実際に5年生の授業の様子を見ていただき、子どもの姿をもとにしたご助言をさらにいただく予定です。



📧 行事予定はこちらからご確認ください。

◆誰もが安心して過ごせる

インクルーシブな学校づくり◆

神奈川県では、全員参加型の社会（共生社会）を目指し、すべての子どもが共に学び共に育ち、適切な支援を受けることができるインクルーシブ教育を推進しています。本校でも、すべての教育活動の土台にインクルーシブ教育を置き、誰もが安心して学べる学校づくりに取り組んでいます。

8月26日は神奈川県教育委員会から講師を招き、インクルーシブな学校づくりについて全職員で考える機会をもちました。

私たちは「ふつう」という言葉をよく使います。しかし、「ふつう」の基準はとても曖昧です。なぜなら「ふつう」は社会的マジョリティによって決められるからです。従来の学校は、「ふつう」をもとにつくられてきました。しかし、本来多様である子どもたちに「ふつう」の枠組みを与えることが、子どもたちが安心して学ぶ「壁」になっていないかを今一度考えていく必要があります。

「ふつう」に適應できない子どもに課題があるということ？

課題があるのは、子どもを取り巻く環境。子どもではない。

視点を変える

研修の中では、取組事例の紹介の後、「インクルーシブの視点からどんなことに取り組めるか」をグループで話し合いました。「遊びのルールを工夫すれば、みんなが同じように体を動かして楽しめるようになる。」「どの子どもにとっても『見やすい板書』をしていきたい。」「授業や家庭学習は、学び方を子どもが選択できるようにしてあげたい。」「男子トイレ女子トイレだけでなく『みんなのトイレ』もあるとよい。」など、様々なアイデアが出ました。

アイデアの全てを形にすることは簡単ではありませんが、学校の「当たり前」を常に見直し、できることから着実に進めていきたいと思っています。

棚プ（棚プリント）登場！



家庭学習で活用できるように、3階に4～6年生の算数プリントを用意しました。「復習したいな。」「何の勉強をしようか迷うな。」そんなときのお助けプリントです。



📧 学校HPもご覧ください。

学校便りをカラーでご覧いただけます。

https://www.ed.city.odawara.kanagawa.jp/shimosoga_s